# 甘くない翻訳の世界

小川　晋史

翻訳をする場合には何が重要でしょうか。一般的には原語（もとになる言語）の内容を“できるだけ忠実に”訳すことが重要でしょう。しかし、翻訳は場合によって様々な制約を受ける場合があります。例えば、最近はインターネットの発達によって外国で作られたドラマや映画がますます身近になってきました。そこで重要になるのが字幕翻訳なのですが、字幕翻訳における字数制限は比較的知られていることではないかと思います。音声言語（しゃべってることば）をもとに翻訳することはしますが、画面上のスペースの問題や、人が一定の時間内に認識できる字数の限界というものがありますので、ときには大胆な意訳などをせざるを得ません。そのために翻訳者は、『手に入れて欲しいんですが』というのが丁寧な訳であるということを知っている場合であっても『都合してくれ』というような短い表現をあえて用いたりすることになります。字数を減らしつつもどこまで“わかりやすく”訳すことができるかが腕の見せ所で、必ずしも原語に忠実であることには固執しません。

上で見た字幕翻訳の場合はスペースと人間の認識力の問題で翻訳内容に制限がかかるということが起きるわけですが、そのような問題がないにも関わらず多種多様な訳が見られる場合があります。ここでは緑茶の英語表示（英訳）についてのデータを示したいと思います。筆者は2021年後半から2022年前半にかけて近所のコンビニなどでペットボトル入りの緑茶を買って集めてみました。パッケージに英語表示のない商品もありましたが、確認できた英語表示を順不同でまとめたものが以下の表1になります。

| 商品名 | 販売者 | 英語表示 |
|---|---|---|
| お〜い お茶 | 株式会社 伊藤園 | Unsweetened Green Tea |
| なだ万監修 日本茶 | アサヒ飲料株式会社 | GREEN TEA \| NO SUGAR |
| 一（はじめ）緑茶八女茶入り | コカ・コーラ<br>カスタマーマーケティング㈱ | HAJIME GREEN TEA |
| 綾鷹 | 同上 | Authentic Green Tea |
| 綾鷹 濃い緑茶 | 同上 | Deep Green Tea |

| 商品名 | 販売者 | 英語表示 |
| --- | --- | --- |
| 伊右衛門 | サントリーフーズ㈱ | GREEN TEA WITH MATCHA |
| 生茶 | キリンビバレッジ株式会社 | Rich Green Tea |
| | | Green Tea |

表１：緑茶のペットボトルに書かれていた英語表示

そもそも英語表示をしているかどうかは、商品を海外展開しているのかなどのマーケティング面が主に影響しているのだと思われますが、集めてみた７商品８つの英語表示を並べてみると面白いことがわかります。なお、「生茶」については収集している期間中にパッケージ変更があり、英語表示も変わりました。

まず､「お～い お茶」と「なだ万監修 日本茶」の２つについては“Unsweetened”および“NO SUGAR”という、「砂糖を入れていない＝甘く（して）ない」という、日本語では全く示されていない内容が示されています。これは、日本にいると緑茶は甘くないのが当然だと思えますが、海外では必ずしもそうではないということが関係していると思われます。言語学などの世界では**有標**（特別なもの）と**無標**（基本的なもの）という対立概念を用いますが、日本では文化的に緑茶は甘くないのが無標で、逆に海外ではむしろ有標だということです。そのため、言語の表示においても英語では“甘くないですよ”という標示がわざわざなされている（＝有標）のだと考えることができます。

次に､集めた全ての英語表示が異なっているというのも注目に値するでしょう。特に条件を付けずに「緑茶」を英語に訳せといわれたら専門家でなくても“green tea”とするのが普通だと思いますが､そうはなっていません。むしろ､最新の「生茶」がそうなっているだけで、各製品の英語表示はバラバラです。これはやはり他社製品との差別化を図ったのだろうと考えるのが普通だと思います。商品（売り物）であるということが緑茶の英訳に多様性を生んだ理由だと推測されます。

以上見てきたように、翻訳された結果には様々な制約や意図が加わっている場合があることがわかるかと思います。ただ素直に忠実に訳そうとすればいいというものではないのが翻訳の世界なのです。だからこそ専門家がいて、それを勉強するための学校なども存在しているということなのでしょう。全くもって甘くない世界のようですね。